

中村道場 型競技 採点方法&採点基準

【試合の進行】

5人の審判入場「審判団を紹介します。主審〇〇、副審〇〇、〇〇、〇〇、〇〇、以上、5氏審判で行います。」

①試合開始。「これより全日本 型競技、一般男子の部を行います。」

②コート担当者は演武する選手を呼び出す。

(氏名のみ。道場名・型の名前は呼ばない)

③選手は試合場に一礼して入場。中央に立つ。

④主審の「正面に礼」の号令で選手は礼を行う。

⑤主審が右手を挙げて開始の合図を行う。

⑥選手は演武する型名を発声し演武を行う。

※「用意」「始め」「号令」などの付随する言葉は発声しない。

⑦演武を終えた選手は姿勢を正して中央に立つ。

⑧主審の「判定をお願いします。判定」の号令で副審は得点を揚げる。

※記録係りは、主審から右回りに副審の得点を記入する。

※記録係りは、最高得点と最低得点を除いた3人の審判の合計点を計算する。

⑨コート担当者が得点を発表する。

⑩主審が「正面に礼」の号令をかけ、退場を促す。

⑪選手は主審の合図で退場する。試合場を出るときは一礼を行う。

⑫選手が退場後、次の選手を呼び出す。

⑬全ての選手の演武終了後、記録係りは集計を行い、順位を発表する。

⑭審判退場。

※試合進行の流れで、審判が先に退場した後、順位発表を行う場合もある。

【採点方法】

①五人の審判で採点を行い、最高得点と最低得点を除いた3人の審判の合計点によって競い合う。

②基準点は6点。加点・減点で採点を行う。上限を9点とし、下限を3点とする。

※完璧な演技者が出れば、10点満点も可能。

③加減の単位は、0.5ポイント刻みとする。

④同点の場合、以下の優先順位で勝敗を決める。

1、最低点の高い選手。

2、最高点の高い選手。

3、主審の得点が高い選手。

4、予選の型試合を行うカテゴリーの選手は、予選型での採点が高い選手。
それでも勝敗がつかない場合は、再度、型演武を行い、旗判定で決める。

【採点基準】

<失格>

①口頭で言う型名と実際に行った型が違う場合。

②間違いに気付き、やり直した場合、中止してしまった場合。

型を失念したり、間違いの收拾がつかなくなり主審が止める、又はアドバイスをする場合。

※補足

上記の失格に関しては、失格相当としつつも最後まで演武は行ってもらい判定をとる。その場合、下限の3点より低い2点とする。

③審判の指示に従わなかった場合。

<流派の違いからくる型の解釈に関して（特に外国人など）>

流派・他派閥の違いから生じる動作の相違、気合の入る箇所相違は、「間違い」として捉えるのではなく、空手の本質的な動き（力の強弱・技の緩急・息の調節に象徴される型の流れ、技の精度）を見て採点を取るようにする。

「間違い」なのか「動作の相違」なのかは、試合場にて、選手の資質・状況を見て、審判の判断に委ねる。

※必要に応じて、採点前に、審判団、コート責任者が集まり、協議する場合もある。

ただし、本大会は、極真空手の大会であり、ここで言う「空手」とは、あくまでも普遍的な極真空手の型の動きをベースに採点を行う。

<具体的な採点ポイント>

以下の項目を採点の目安とする。

それぞれの項目内容の度合いにより、0.5ポイント、1ポイント刻みで評価、加減を行い得点数を合計し、採点結果を出す。

審判は、減点ばかりを評価するのではなく、加点も同等に判断し、採点を行う。

～減点ポイント～

「動作」

- ①入退場、試合場内での礼法・立ち居振る舞いが悪い。
 - ②動きを飛ばした場合。
 - ③著しくバランスを崩した場合。
 - ④動作の間違い。
 - ⑤立ち方、握りや手刀等手先、引手の精度が悪い。
 - ⑥中足、足刀等足先に関しての精度が悪い。
 - ⑦移動（運足）時のバランスの崩れ、二度踏み、継足、盗み足等をする。
 - ⑧姿勢が悪い、要が高過ぎる、低過ぎる、前傾になりすぎ。
 - ⑨必要以上にタメを作ったり、逆に速過ぎる場合。
- ※それぞれの型の解釈があるので、明らかに理合いに反した場合に適用する。
オーバーアクションなどがここに該当。
- ⑩目付が出来ていない、技の理合いとして不自然。

「気合」

- ⑪気合の入れ忘れや、発声（挨拶・型名・気合）が極端に小さい場合。
- ※ただし、幼年や小学生低学年などのカテゴリーは、声が小さいので、出場している選手の相対的な基準で判断を行う。

「場外に関して」

- ⑫試合場から足が出た場合。（使用コートが小さい場合はこの限りではない）
外側のマットに片足が出た場合。
外側のマットに両足が出た場合。

～加点ポイント～

- ①重心が安定して立ち方、移動（運足）がすぐれている。
- ②技のスピードが速い
- ③技の動きが力強い
- ④全体的な型の流れに緩急、強弱が整っている
- ⑤気合、発声に迫力がある（声が大きいだけではない）
- ⑥型全体の構成・完成度がすぐれている。
- ⑦技の繋がりがすぐれている。
- ⑧余計な動作、乱れた動作がなく、連絡動作がすぐれている。
- ⑨跳躍が高い。
- ⑩一つ一つの技が正確かつ術理に秀でている。
- ⑪片足での安定感がすぐれている。

- ⑫立ち方、握りや手刀等手先、引手の精度がすぐれている。
- ⑬中足、足刀等足先に関しての精度がすぐれている。
- ⑭蹴り足が高い。※ただし、あくまでも理合いに基づいた高さ。
- ⑮目付がすぐれている。※ただし、オーバーアクションは不可。

【補足】

中村道場の型は、中村総帥の型に見られるように、ダイナミックかつ実戦で使える力強さを求めているので、細々とした減点を取るより、加点重視の採点を推奨しています。

この方法により、迫力ある型試合の攻防が展開されるものと考えております。

また、加点重視により、＜流派の違いからくる型の解釈に関して＞も、表現違いを粗探しをする必要も少なくなるので、違う解釈の動きも公平に採点できるものと考えます。

いづれにしろ審判は、自身の採点基準をはっきりさせ、他の審判に影響されず、明確なジャッジを貫き通して下さい。